

身近な「繋がり」

岡山歴史研究会所属 山崎泰二

私が進めているエコちゃん（生ごみを堆肥化にする手作り装置）仲間で、一回り先輩の田中夫妻宅に、全国紙「歴史探究 10 月号」に掲載された私の拙文を渡辺先輩のも含めて、お二人に届けに上がった。このお二人は原尾島界隈の、自宅での家庭菜園に勤しみながら、老人会のお世話等地域活動にも余念がなく、私の歴史系の話を心地よく聴いていただけるそんな気さくな仲間である。田中宅に上がり奥さんの茶菓のもてなしの会話の中で、意外な方向に話が発展した。古稀を迎えた私もこの夫妻の前では若造の仲間ではあるが、知的な会話は何時もお互いに得るものがあるようで歓迎していただいている。

田中氏が部屋の隅で何か資料を探している。氏が奥さんの実家へ初めて挨拶に伺った折に、今は亡きお父様ら聴いたことを懐かしく思い出したとの事である。私が後南朝の研究をしていることに絡んで、その後義父になる当主から、法然所縁の誕生寺に昭和 9 年に建立された「南朝作州忠臣総魂碑」に我家も末裔として載っている家柄であることを知らされた。その後境内にあった碑は、新しい第 2 駐車場に平成 17 年に移設されたが、新婚のお二人が誕生寺の謂れの忠魂碑に手を合わせたのが懐かしそうに思い出され、一瞬お二人の顔が薄赤くなった。二人だけの思い出までは言葉にはならなかった。

碑の台には関係者の大勢の名前が記されているが、その中に「原田三河守佐秀（すけひで）」の後裔及び縁故者一覧の中に小原住人延原〇〇と刻まれているとの記憶である。それ以上は、ご夫妻は思い出せない様子。お父様から詳しくお聴きのことと思うが若いお二人はそれから長い人生を歩んできた。これだけ諳んじているだけでもたいしたものだと関心しながら、私の浅学で「それは菅原道真の末裔で菅家七流の一族が大正天皇から正五位を追贈された慶事を記念して七家を統合した忠魂碑が誕生寺に建立された」ことを説明して納得いただく。私は「近いうちに菅家七流一族のことをテーマにして纏めたものを作りましょう」と約束し、この話を締めくくった。

話は進み奥さんのお母さんの実家が東手の尾根の頂上に近い是里（これさと）で、集落は「物理＝もどろい」と称する曲がりくねった山奥に母方の里があり井上姓が多く、何故こんなところに住むようになったのか子供心に不思議であったと、その頃を回想し、親から「井上一族はその昔には武士で戦いに敗れてこの物理（もどろい）の里に隠れ住んで今日がある」と聞かされ、何時の時代のどの戦かは知らされなかった。との事である。「先祖は信州長野では」と話を向けると大きくうなずいて「井上かやた」（=正式には井上賀弥太で秀男氏の実父）の名前を覚えているとの事であった。

実は日本先史古代研究会の仲間で、“きび考” 5 号に井上秀男氏が物理在住の井上一族の仲間と信州長野を探訪した文章を掲載され、当地との交流の様子を知っている。そのことを話すと田中夫妻は、大感激され是非“きび考”を拝読したいとの事である。ひょっとすると田中氏の奥さんの母方の実家が井上秀男氏の実家である可能性も出てきた。井上氏と私は特別に入魂で酒席での話題がまた深まりそうで楽しい限りである。（井上氏は岡山歴史研究会の運営委員）

2012.24.9.2